

昭和学報

昭和女子大学

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂
03(3411)5118
編集発行人 鈴木 円

講義を聴くという行為

学生部長 鈴木 円

大学で学ぶうえで、講義を聴くことはとても大切である。このあたりまえのことがおろそかになっていないだろうか。とくに最近、アクティブラーニングが推奨され、討論やプレゼンテーションなどのアウトプットに焦点があたるといわれる。講義形式そのものがあってもパッシブで時代遅れなもののように見なされる。

がちなのは残念である。実は、教育の歴史のなかで、アウトプットが重視される傾向は今に始まったことではない。とくに西洋においては、修辞学や弁論術に永く重きが置かれてきたことから分かるように、いかに話すかについては昔から関心を持たれてきたのである。反面、聴くことがおろそかにされがちだと

いう認識も古くからあったように、古代ギリシア・ローマ時代の様々な学者たちが指摘している。例えば、古代ギリシアでは、トウキデイデスが『ペロポネソス戦争史』のなかで、政治演説の美辞麗句に心を奪われ、現実の政治的状况をきちんと認識しないアテナイ市民に警告を発するクレオンの言葉を記しているし、スト

年度末理事長・総長、学長講話に続き「STUDENTS OF THE YEAR 2017」の表彰式が創立者記念講堂で行われた。平成22年度にスタートし今年8回目を迎える同賞は、学生の活躍や社会貢献活動を顕彰するもので、今年度は、2名が受賞した。さらに、今年度からは教員を顕彰する「TEACHERS OF THE YEAR」もスタートし、4件10名が受賞した。



STUDENTS OF THE YEAR 2017

◆ビジネス 和田海月

トビタテ！留学JAPAN 第4期生として、イギリス及びデンマークへ留学し、北欧での女性の働き方について調査を行った。また、その経験を活かし、留学仲間とともにJSIE 主催、Google Japan, Temple University Japan ICAS, 米日財団協力、在日米国商工会議所、日本医療政策機構後援のWISE 2017 サマープログラム「情熱とアイデアをカタチに」において最優秀賞を受賞した。

◆初教 川村真由

トビタテ！留学JAPAN 第5期生として、カンボジアの初等教育現場に飛び込み、課題を探り、その後、国連プログラムに合格しアフリカのルワンダにて発展途上国の教育の現状を視察した。帰国後は、その経験を学内に広く講演することで、学生のグローバル意識の啓蒙に寄与した。

TEACHERS OF THE YEAR 2017

◆日文 専任講師 須永哲矢

コーパスを用いて古文学習教材の開発を行う「古文学習教材作成プロジェクト」を指導し、「通時コーパス」シンポジウム2017において、プロジェクト参加学生と共にポスター発表を行った。この活動の成果をまとめた学習教材が教育現場でも活用され、大学での学びと社会貢献を強く結び付けた。

◆環境 准教授 田村圭介

「新宿駅模型プロジェクト」において、学生を指導し共に新宿駅模型を完成させた。模型は新宿歴史博物館や新宿駅で展示され、学生は企画構想から実現まで関わり、活動を通して幅広い学習と貴重な体験の機会を得ることができた。

◆ビジネス「グローバルビジネス基礎演習」1年生担当教員 教授 前田純弘 (他5名)

同授業において、大学生活に求められる基礎的な学習方法や知識だけでなく、プロジェクトやチームでの議論を通じ、学生に自主的な問題意識や問題解決能力が身につく講義を設計・実施。学科の目指す人材づくりの基盤形成に大きく貢献した。

◆国際 中国語教員 教授 フスレ (他1名)

留学中の学生のもとを何度も訪問し、学習上の助言を与え励み続けることで、学生の円滑な留学と中国語能力向上に大きく寄与した。また、帰国後、中国語での卒業論文執筆の指導にも熱心に取り組み、ダブル・ディグリー・プログラム一期生のダブル・ディグリー授与に多大な貢献を果たした。



地下書庫に並ぶロウブ古典叢書

ア派の祖ゼノンが、調理されたものをそのまま受け取るように聴くのではなく、語られたことを真に役立てるにはどうするかを考えるべきだと説いたと、ディオゲネス・ラエルティオスは伝えている。さらに古代ローマでは、皇帝ネロの家庭教師

であったセネカが晩年に著した『倫理書簡集』に、講義を聞くときは、医師の治療に身を委ねるように口を慎み、黙って話を聞くように勧めた書簡がある。また、奴隷出身のストア哲学者エピクテトスの『語録』には、話すべきことを話すのに熟練が必要

である。大人になることは保護者の束縛を逃れて自由になることではなく、世の中の道理の支配を受けけることである。その道理に従う者が真に自由な教養ある人である。教養を身につけるためには優れた人の講義を聴くことが必要である。若者が徳

を得るための唯一の掴みどころは耳である。講義を聴かず言論に触れることのない者は、成長しないばかりか悪徳に染まることになる。言葉を発するよりも先に、言葉をよく受け取ることが学ばべきである。自然が我々に二つの耳と一つの舌を与えたのは、聴くよりも話すことを少なくするためなのである。講義を聴くときには、話し手の言葉に耳を傾けて穏やかに聴くべきで、語られた言葉を嫌悪したり、話し手を妬んだりしてはいけない。無知の原因は自分自身にある。恥ずかしがりやで引込み思案な者は、遠慮して質問ができず、理解したふりをする。逆に競争心の旺盛な者は、自分の理解力をひけらかそ

うとして、理解したふりをする。前者は苦しんで問題に行き詰まり、後者は、自分の無知をいつも隠さなければならなくなる。だから、自らのすべての愚かさや偽りの見せかけを投げ捨てて学問に邁進し、有益な言葉を理解することに専念しなければならぬ。よく聴くことはよく生きることの始まりである。

このようなことをブルタルコスが語っているが、いかがだろうか。ここでご紹介した先賢の言葉の数々は、図書館の地下書庫にひっそりと並んでいるハーバード大学のロウブ古典叢書のなかにある。古の賢者の講義を聴きたい方は、ぜひ繙いてみていただきたい。

(すずき まどか)

ご卒業おめでとうございます ~先生方から卒業生に贈ることば~

自己をしなやかに演出すること



卒業おめでとう。大学という温室から、中には荒くれた男たちのいる〈劇場〉に旅立ちをする貴女たちに必要なことは、いかに自己を演出するかということです。しなやかにかつ大胆に自分のチャーミングポイントを見せつけて下さい。

(日文 教授 大倉比呂志)

To Our New Graduates



You are brilliant, ambitious, and hard-working. You have accomplished so much and will do more in your lives than you can imagine

now. Never let anyone treat you as less. Always shoot for the stars.

(英コミ 専任講師 ランダオ サマンサ)

本を読みましょう



社会に出てからこそ本を読みましょう！書物の世界はあなたの心を広く深く豊かにしてくれます。自分の心をコントロールすることは一生継続

く難しい課題なので。ひととして善い生き方を求めながら、幸せに生き抜いてほしいと願っております。

(歴史 教授 掛川典子)

喧噪と黙思 錯雑する世情への一言



飛び交う情報の直中で人は意識を周囲へ拡散させ、他者の言動に過敏になりはしないでしょうか。頻りと出回っては疲れていくもの山からひ

とまず目を背けて時折直覚も働かせながら、本当にやりたいことは何なのかをしみじみ沈黙思考してみられては如何ですか。

(国際 教授 森本真一)

自身の運命を導く言葉を



卒業を語る時に、4年間を表す言葉を選ぶ人、卒業の瞬間に閃く言葉を選ぶ人、明日の自分を表す言葉を選ぶ人がいます。明日以降、さまざま

な卒業の時を自身で決める人生が始まります。他人も自分も、あたため幸せになる言葉をかけ続ける毎日でありますように。

(ビジネス 教授 飴善晶子)

勇気と自信をもってください



人生では思わぬ壁にぶつかることがあります。過去の経験や学んだ知識を役立てましょ

う。また、あなたを支えてくれる友人や人生の先輩たちがいることも忘れないでください。遠回りすることもあるかもしれませんが、壁の向こうには新たな景色が広がっています。

(心理 教授 松永しのぶ)

新たな物語の始まりにむけて



ご卒業おめでとうございます。これまで学んできたこと経験してきたことは、これから生きていくなかで役に立たないことは何もありません。

自分を信じ、自分に誇りを持って、自分らしく進んでいかれることを願っています。ご活躍を心よりお祈りいたします。

(福祉 教授 原 史子)

どこにいても何をしていても愛を



タイトルに当たるイスラム神秘主義(スーフィズム)の詩人ルーミーの言葉を卒業生の皆さんに贈ります。本学での学びを通じて、広い意味の

「愛」について皆さんは身に染みていろいろ実感してきたはず。それを忘れずにこれからの人生に活かしてくださいね！

(現代 准教授 シム チュン・キャット)

「謙虚に、慎重に、冷静に」歩んでいこう



卒業おめでとうございます。人生、「登り坂」の時は「有頂天にならず、謙虚に。」「下り坂」の時は、「投げやりにならずに、慎重に。」「ま坂」の時は

「慌てず、冷静に。」をモットーに、真面目に、柔軟に、力強く、人に優しく、感謝の気持を忘れずに、前に進んでください。

(初教 教授 横山文樹)

君の名と組紐



卒業後、多くの学生の名を忘れてしまう。しかし、卒業研究のテーマを聴いたり、あの時の講評会での場面が蘇ったりしたとき、君の存在が忘却の彼方から立ち現れる。君の名を忘れても、その研究成果は君の組紐としてずっと記憶に残る。そして名前に結び付く。

(環境 教授 堀内正昭)

卒業おめでとうございます。



授業、レポート、卒論、学寮、多くのイベント、いつも一生懸命でした。社会にでも、きっとその経験が生かされると思います。ご活躍を期待しています。

(健康 教授 江崎 治)

ひたむきに一步、一步



人生100年時代を迎えます。いろいろなことにチャレンジできる時間はたっぷりあります。時には自分の未熟さに落ち込むこともあるでしょう。

でも大丈夫！未熟だからこそ成長があります。ひたむきに一步、一步踏みしめて、あなたらしい素敵な人生を歩んでください。

(管理 教授 石井幸江)

社会への飛翔——私の就活

学生生活を終え、それぞれの世界へ羽ばたく先輩からのメッセージ

◆周りに流されない就職活動

富士ゼロックス東京株式会社内定 歴史 橘 結衣

就職活動は個人戦である。皆同じスケジュールというのではない。私は常にその点を意識して就職活動に取り組んだ。三月に就職活動が解禁される前から企業研究、自己分析、他己分析に取り組み、準備を始めた。

活動中は、限られた時間の中で学業と就活を両立しなければならぬ。授業がある日は講義に集中し、就活では多い時は一日に三つの説明会に参加したこともあった。これを継続したことが私の強みとなり、面接で「学業と就活の両立」を話す

と、計画性やそれをやり通す根拠を褒めていただくことが多々あった。周りに内定が出始めると、焦ることもあった。けれども、そのような時も毎晩机に向かい、スケジュールややるべきことを確認し、周りに流されないようにした。就職活動では「自分は自分」と割り切った考え、自分を見失わないことが大切だ。

◆他者評価と自信

住友化学株式会社内定 国際 内藤千瑛

私は業界を狭めず、体験と好奇心から企業を選択した。一年生の頃から

なことは、他者からの評価と自信を持つことである。他者評価とは、友人や家族である第三者の評価であり、これにより新たな自分を発見することができる。エントリーシートを他者に添削してもらったことも重要だ。

様々な表現を知ることができ、自身のスキルアップにもつながるからだ。また就活時期は、同じ目標に向かって努力する友人が励みにもなるため、特に友人との時間を大切にしたい。

私は、面接の際に話す内容がよく普通のことが多いように思えて、自信を持って苦手だった。しかし、面接で面接官の方が笑顔になることもあり、自分の良さとして捉えることで、自信をもって面接にのぞめるようになった。そうしたこともあり、希望の会社から内定をいただくことができたのではないかと思う。

苦しい時もあるが、その中でも楽しみを見出し、思い出に残る就職活動にしてほしい。

◆足を運んだ数が自分の可能性を広げる

株式会社日立テクノロジーズ内定 ビジネス 小澤千耀

私は業界を狭めず、体験と好奇心から企業を選択した。一年生の頃から

長期休暇中は海外留学や、ホテル・コンサルティング・SEのインターンシップ等に参加した。すべて、自分の知らない世界をみてみたいということが原動力となり、行動に結びついたと感じる。その時の出会いや発見、体験の積み重ねが、今の選択に繋がっている。就職活動中に不安を感じた時は、家族や友人、先生やキャリア支援センターの方に相談をした。すると、対話で自分の気持ちに気づかされたり、言葉にすることで明確化されたりして、次の行動に繋がった。やりたい仕事が決まっている人は、その道を突き進んでほしいが、私の場合は、多くの企業や人と逢うとともに、これからの時代に求められるものを常に意識して、就職活動

を続けること、自分を制限することなく、積極的に挑戦してほしい。

◆キャリアプランを考えたから

株式会社三菱インシテック内定 福祉 小林円香

私は、もともと金融関係の企業に興味があった。セミナーに参加したり、先輩の就職活動体験を聞いたりする中で、興味は次第に強い希望へと変わり、意欲的に活動することができた。

早期に支店訪問やOG訪問を行うことで、企業の雰囲気や実際の仕事のイメージを掴むことができた。また、面接では、様々な企業の方と触れ合うことで視野が広がり、社会人としての自覚が芽生え、より意欲的に取り組んで行くことができる。後輩の皆さんは、自身のキャリアプランを考えながらチャンスを活かし、前進して行ってほしい。

◆戦略的な面接対策を

株式会社ジェイアル東日本企画内定 環境 島村日菜美

私は当初から、広告代理店を中心に活動した。その中で、面接官が私達に聞きたいことは、「したこと」よりも「どんなことを考えて行動したか」という、想いや価値観であると感じた。「この学生は、どんな部署で活躍できるかな」と想像することもあると思う。業界や会社により求める人物像は異なるが、自分が伝えたいことが必ずしも面接官の心に届くとも限らない。OG訪問や面接では、相手の反応により、改善することが大切である。OG訪問を重ねること

で、ES(エントリーシート)や面接にその会社の実情を反映できる。ESは一貫した軸を持ち、自分しか書けない内容を作成することが大切だ。そして面接に向けて、このESをもとに、リズムよく、自分の魅力を端的に伝えるための準備や作戦を立てることをお勧めしたい。

◆リフレッシュを忘れずに

三菱食品株式会社内定 健康 袴塚菜央

就職活動は、自己分析と企業研究が重要である。なぜならば、自分と企業の双方を知ること、ミスマッチが少なくなるからだ。自己分析では、自分自身で過去を振り返るだけでなく、友人や家族などによる他己分析も行った。他者からの客観的な意見を聞くことで、自分では気づくことができなかった長所を発見できた。また企業研究では、ホームページやwebセミナー等から得た情報をノートにまとめ、説明会ではその場でしか得ることができない情報を書き留めることを心がけた。そして、志望会社だけでなく、業界地図に載っている競合他社との比較も行った。

就職活動を行う中でストレスを感じることはあると思う。健康でなければ充実した就職活動はできないため、リフレッシュすることを忘れずに就職活動に取り組んでほしい。

日文 横井さんの作品が東京メトロ文学館優秀作品に

「東京で感じるあなたの心」をテーマに、東京メトロ文化財団が詩を募集し、優秀作品を電車内に掲出する「東京メトロ文学館」。第二六回となる今回は、応募総数四八七編と、大変な数の作品

の中から二〇編の入選作品と六編の優秀作品が選ばれた。ありがたいことに、私の作品「ストロブの匂い」が優秀作品に選ばれた。

元々、児童向けのファンタジー作品を書くことが趣味なのだが、たまには違うジャンルに挑戦してみようと思いつき、偶然、電車の吊り広告に詩の募集を見つけたのが応募のきっかけであった。

一度目の応募では、「ストロブ」という詩を入選に選んでいただき、二度目は

この記事をお読みになったあなたが、七号館七階や、電車の吊り広告で、私の作品を思い出しただければ、とても嬉しい。

(日文 横井佳奈)



掲出されるポスターを手にする横井さん

世田谷美術館 「パリジエンヌ展」内覧会取材

一月二日に開催された「ポストン美術館 パリジエンヌ展」時代を映す女性たち」記者内覧会に、本学学生四名が取材記者として参加させていただいた。

同展は、いつの時代も人生を謳歌するパリの女性たちの姿を、マネの「街の歌い手」をはじめ絵画やドレスなどポストン美術館の多彩な収蔵品約一二〇点を通して感じてもらおうという企画だ。

私が最も印象に残った作品は「オートクチュールの父」と呼ばれるシャル・フレデリック・



同展の会期は、一月三日〜四月一日。上はマネ「街の歌い手」、下はシャル・フレデリック・ウォルトのドレス。

ウォルトのドレスである。素材や二色のレースの重なり、裾の広がりなど、どこをとっても素晴らしい、特にバックスタイルが魅力的なのではないかと、みなさんにも実物をご覧いただきたい。

私は現代教養学科でマスメディアについて学んでおり、将来メディア関係にかかわる仕事に就きたいと考えている。今回記者の方々の仕事を間近で拝見できたことは、大変勉強になった。写真の構図など、さっそく参考させていただいた。このような機会があれば、今後も積極的に参加していきたい。

(現代 山田ひより)

文化講座

ザ・チーフタンズ (12/5)

ザ・チーフタンズは、今年結成五周年を迎えたアイルランドのバンドである。彼らの音楽は「ケルト音楽の至宝」ともいわれる。ケルト音楽はステップダンスとともに演奏され、伝統楽器アイルリッシュハーブや伝承歌が組み合わされた軽快で美しいものである。



聴いているとどこか懐かしく温かい雰囲気を感じ、自然と体が踊り出すような楽しい音楽であった。また、間近で見るとステップダンスの力強さとハーブやアイルリッシュの音色の美しさにうっとりさせられた。会場は手拍子が鳴りやまず、最後には客席も交えダンスの輪が広がり、一体感と熱気が最高潮のまま終演となった。ケルト音楽がすたれることなく愛されていることに感動した。この公演はヨーロッパの伝統文化に興味を持つ良いきっかけになった。

(学報委員 村田章菜)

「日本人とがん」中川恵一氏 (12/13)

中川氏は、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部長であり、新聞にがんに関するコラムを連載されている。「日本は二人に一人ががんになるが、大國であるにもかかわらず、その知識が少ない人が多い。がんの原因の多くは生活習慣によるものであり、六六%が治る病である。まずは罹患しないこと、そして定期健診を受診し早期の発見、治療が重要であり、こうした知識を普及すること、また重要な」と中川氏。確かに、私もこれまでにがんについて詳しく学んだ経験はない。



この講演中、若くして乳がんが亡くなった小林麻央さんが頭に浮かんだ。報道に触れ、他人ごとではないと感じたが、私も含め、それを何らかの行動に結び付けた人は少ないのではないかと。今後は、健診の機会を逃さず、がんについての正しい知識を得ることを積極的に行いたい。私かあなたのどちらかががんになり得る時代なのだから。

(学報委員 松山風沙)

100周年準備企画 学報アーカイブ 上海からの贈りもの

創立者記念講堂のエンランスホールには、鐘が連なる巨大な編鐘が置かれていた。「楚形昭韻」と名付けられたこの編鐘は上海交通大学から友好の証として贈られたものである。



平成四年六月一日付の「昭和学報」には「日中復交二十周年記念 上海交通大学と姉妹校締結」と題した記事が大きく一面に取り上げられている。それによれば、「一九七八年湖北省隨県で発掘された一編鐘を二年がかりで復元したレプリカだという。大小四三の鐘が三段に並んでおり、高さ三メートル、横幅九メートル、総重量六トンという巨大な編鐘である。編鐘は古代中国の打楽器で、出土品は中国の国宝に指定されている世界的な文化財である。本学への贈呈にあたり

ては、上海交通大学の学長他、上海市民約千人も参列した贈呈式が平成三年九月に上海交通大学で盛大に行われ、この様子は日中復交二十周年に先駆けるイベントとして、大々的にマスコミに取り上げられたことも記事には記されている。翌年本学で開催された記念式典でも、中高部の吹奏楽部とともに「さくらさくら」など日本の楽曲が三曲初演奏されたという。式典では、上海交通大学の翁史烈学長が記念講演の中で「両校の友好と発展が長いことを信じています」と語っている。その言葉どおり、姉妹校締結から二五年が経った現在でも、上海交通大学との交流は続いている。当時締結された交換留学制度に加えて、本学に三年間在籍し、上海交通大学に二年間留学すること、両校の学位が取得できるダブル・ディグリープログラムがスタートしており、この三月には、はじめてのプログラム修了者が卒業する。両校が二五年前に交わった言葉どおり、現在までしっかりとした絆でつながっている。今後も両校の、また日中両国の友好が続くことを願う。

(学報委員 柿田知笑・吉江真耶)

先生の研究室訪問 五感を研ぎ澄ませて

環境デザイン学科専任講師 伊藤兼太郎先生



今回訪問したのは環境デザイン学科プロダクトデザインコースの専任講師、伊藤兼太郎先生である。伊藤先生のご専門はパッケージデザインで、前職では商品のパッケージ

ジをデザインをされていた。そうしたご経験や、デザインに対する考え方について伺った。先生は、学生時代、空間デザインについて学ばれ、大学院進学を機にパッケージやグラフィックデザインについても学ばれた。そこで、立体物をデザインする面白さを感じたという。その後、化粧品メーカーに勤務された。化粧品メーカーを就職先として選んだ理由をお聞きすると、ボトルの形やパッケージといっ

た立体的なデザインがしっかりとできるため、とこやかに話された。先生は企業でのご経験から、「ブランドデザイン」という企業イメージにかかわるデザインについても授業で指導されている。「ブランドデザインは、企業の価値を作るためのデザインである」という先生の言葉が印象に残った。「ブランドデザインの本質は企業の価値を可視化することであり、企業の方の自社への想いに対し、どんな形を提案すれば効果的かを考え、伝えていく仕事だ」と先生は語られた。

「デザインについて誤解する人が多いが、デザインとは視覚情報や物の形だけを作るわけではなく、その対象を深く考えることからはじまる」と伊藤先生。そこで、デザインに必要な思考力や課題発見能力を育成するために、物事を観察することや視点の違いを人と共有することを授業では重視しているそう。デザインは視覚的な判断だけではなく、五感全てを研ぎ澄ませて何を感じるかを考えていく必要がある、とも。デザインを熱く語る先生の休日は、様々なギャラリーを訪れることが多いそう、もしかすると先生も日々、観察する力や五感を磨くことを心がけておられるのかもしれないと感じた。

最後に、学生生活でやるべきことをお聞きすると、日常で起こる様々なことを積極的に楽しんでほしい、と話された。情報が溢れる現代では、与えられるものを受動的に楽しむことをしてしまいがちだが、自分の興味に従って積極的にとことん行動してほしい。一つのことを深く追求することが、デザイン分野だけではなく今後の人生にも生きてくる、とのアドバイスをいただいた。先生のお話を心に留め、何かを「発見」し続けるべく努力したい。

(学報委員 小泉奈央 白井杏奈・室永夏奈)

行事予定

- 3月 1日(木) 学内合同企業説明会(平成31年3月卒業予定者対象) (~13日、土日を除く)
- 3月 4日(日) 3月期入学試験・グローバル入学試験 (入試で使用する建物への入館不可)
- 3月 7日(水) 大学院修了・学部卒業者発表(10:00)
- 3月 9日(金) 学年末研修期間終了、特別試験
- 3月11日(日) 春季休暇(~31日)
- 3月14日(水) 卒業式代表リハーサル(11:00)
- 3月15日(木) 卒業式予行 (①9:30 人社・科学、②13:30 院・人文・G B)
- 3月16日(金) 卒業式 (①9:30 人社・科学、②13:30 院・人文・G B) 図書館休館
- 3月24日(土) 第1回オープンキャンパス(10:00)
- 3月30日(金) 図書館休館(~31日) ポストン長期プログラム(ビジネス)出発
- 3月31日(土) 【論文博士】学位請求論文とりまとめ日限(~16:00)